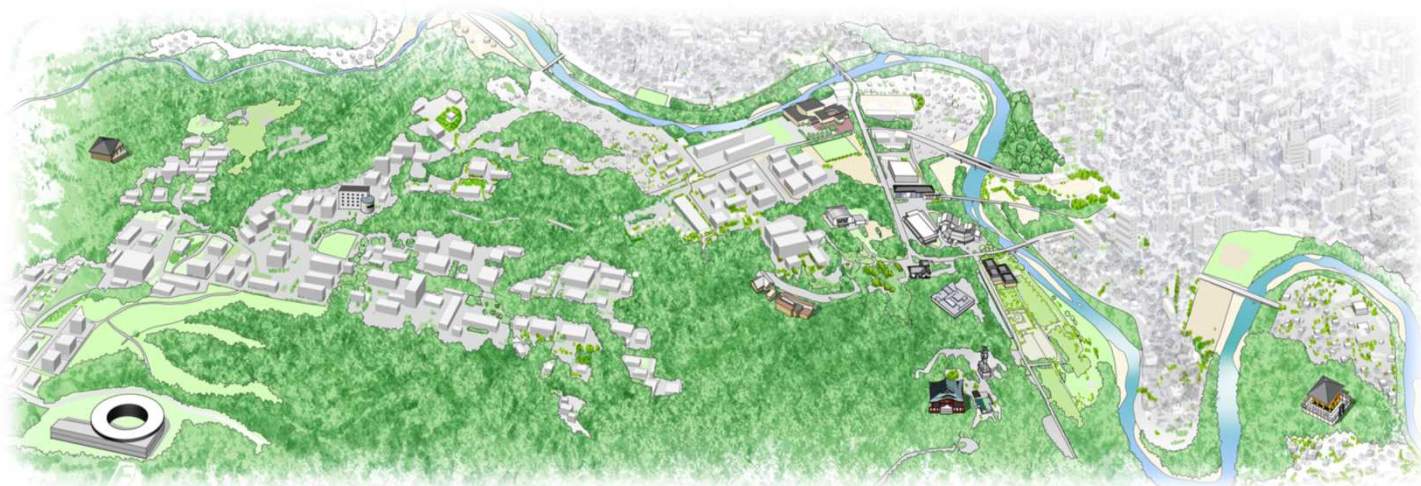


仙台・青葉山エリア 文化観光交流ビジョン (最終案)

杜の都の「歴史」と「今」と「未来」をつなぐ
～ 特別な空間と時間を青葉山エリアで ～



令和 5 年 3 月
仙台市

第1章 青葉山エリア

1 仙台・青葉山エリア文化観光交流ビジョン策定について

人口減少や少子高齢化が進む中、本市が持続的に発展し、選ばれるまちであり続けるためには、仙台独自の個性を磨き上げ、その魅力や価値を国内外に発信していくことが必要であり、そのための重要な要素となるのが青葉山エリアである。

この場所は、仙台のはじまりの地とも言える場であるとともに、仙台市基本計画においても「国際学術文化交流拠点」として、重要な拠点と位置付けられている。また、青葉山公園の整備や大手門復元に向けた基礎調査、音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設の整備など重要なプロジェクトが進行している。

こうした好機にあらためて、エリアの価値や魅力、回遊性の向上に向けた方向性等を示すビジョンを策定し、市民はもとより国内外に発信することにより、本市全体における交流人口の一層の拡大を図る。

なお、本ビジョンは、各種プロジェクトの一定の進捗が見込まれる概ね10年後を見据えたものとする。

2 青葉山エリアの範囲

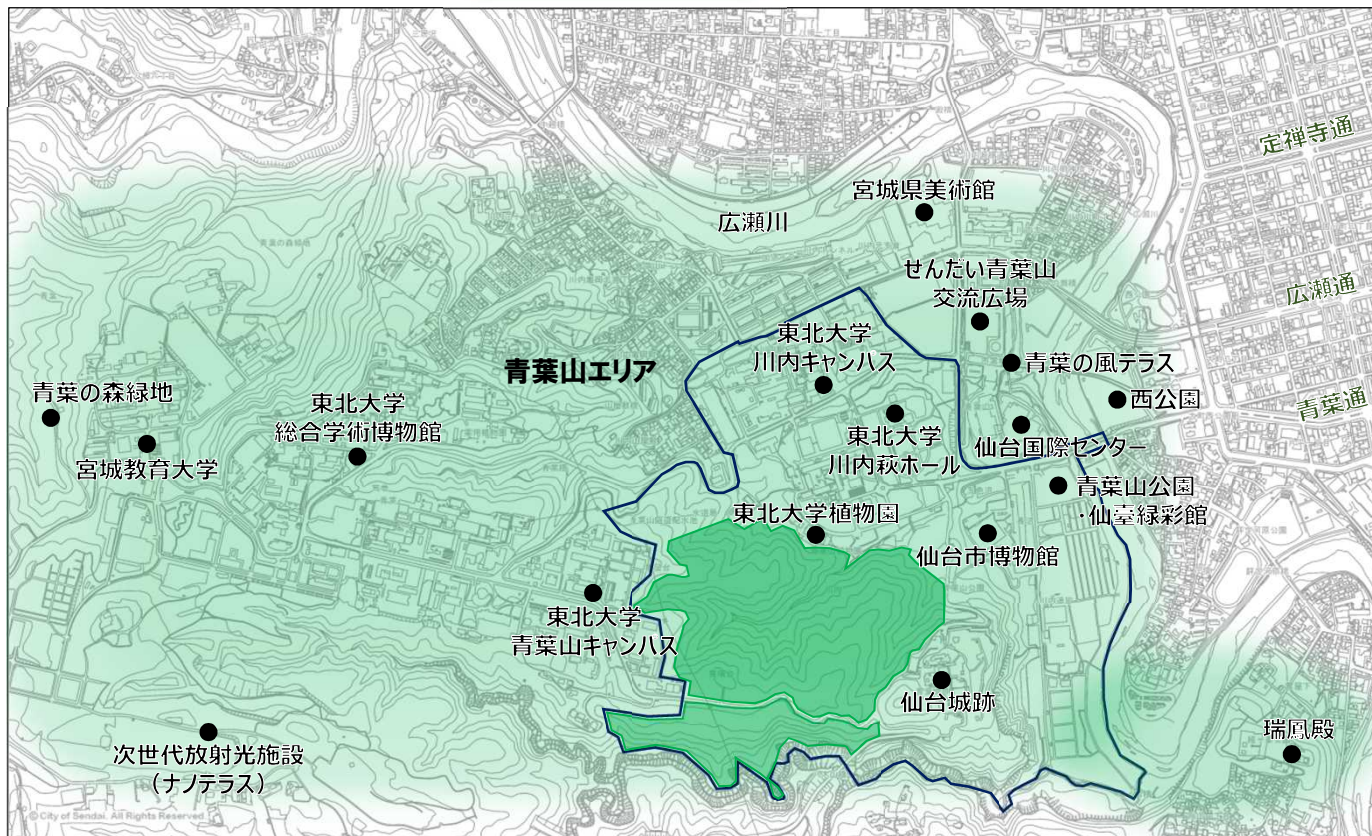
伊達政宗公が青葉山に仙台城を築いて以降、青葉山周辺は、豊かな自然や歴史が大切に守られながら、天然記念物「青葉山」の指定、「学都・仙台」や国際交流の拠点としての発展を経て、歴史、文化、観光、学術、自然などの様々な資源に恵まれた、本市が内外に誇り得るエリアとなってきた。

仙台はじまりの場所と言える仙台城跡をはじめ、本市の魅力をもっと高める様々なプロジェクトが進む一帯を、本ビジョンの対象である「青葉山エリア」とし、エリア全体の将来像を発信していく。

青葉山エリア

仙台城跡の範囲

天然記念物指定地



第2章 青葉山エリアの現状等

青葉山エリアの特性と価値

■豊かな自然と歴史資産が残る特別なエリア

都心からほど近くにありながら、天然記念物青葉山、広瀬川など豊かな自然が広がるほか、史跡仙台城跡など歴史資産を有する。青葉山公園、西公園の整備により、憩いと安らぎの空間の一層の充実を図る。

(主な資源) 天然記念物青葉山、東北大学植物園、広瀬川、仙台城跡、瑞鳳殿、青葉山公園、西公園、青葉の森緑地
(進行中の事業) 史跡仙台城跡整備、青葉山公園整備、西公園再整備



東北大学植物園

■文化芸術施設、教育・研究施設が集積する文教エリア

仙台市博物館、宮城県美術館をはじめとした文化施設、大学、高等学校等の教育施設が立地。国際センター駅北側には、文化芸術・災害文化の拠点として音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設の整備を進め、文教エリアとしての充実を図る。

(主な資源) 仙台市博物館、宮城県美術館、東北大学、東北大学川内萩ホール、宮城教育大学
(進行中の事業) 音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設整備



仙台市博物館

■仙台城跡、瑞鳳殿等から成る本市の主要観光地

史跡仙台城跡をはじめ、瑞鳳殿、仙台市博物館等が立地する本市の主要観光地の一つ。新たな複合施設の整備、エリア内施設の連携による新たな取組みにより一層の交流人口の拡大が期待される。

(主な資源) 仙台城跡、瑞鳳殿、仙台市博物館、宮城県美術館



仙台城跡

■東北大学、仙台国際センターを中心とするMICE（学会・国際会議等）拠点

東北大学、仙台国際センターを核として、グローバルMICE都市である本市のコンベンション開催拠点となっている。大規模学会等の開催時は、音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設との連携・協力を図るほか、青葉山公園（仙臺緑彩館）等のエリア内資源の活用などにより、MICE機能の強化を図る。

(主な資源) 仙台国際センター、東北大学川内萩ホール



仙台国際センター

■「学都・仙台」と、先端技術の創造・発信の重要拠点

東北大学、宮城教育大学が立地し、高度な研究が行われていることに加え、次世代放射光施設（ナノテラス）の稼働により、新たなイノベーションの創出と地域経済への波及効果が期待される。

(主な資源) 東北大学、宮城教育大学、次世代放射光施設（ナノテラス）
(進行中の事業) 東北大学サイエンスパーク、次世代放射光施設（ナノテラス）周辺のリサーチコンプレックスの形成推進



次世代放射光施設

■アクセスに優れた立地

エリア内は地下鉄沿線であるほか、るーぷる仙台が周遊しており、都心からのアクセスが至便。また、エリア内にDATE BIKEポートが複数あり、国際センター駅を基点とした移動などにも便利。

(主な資源) 地下鉄東西線、観光シティループバス「るーぷる仙台」、仙台コミュニティサイクルDATE BIKE



地下鉄東西線

(写真提供) 東北大学植物園：東北大学、仙台市博物館：仙台市博物館、仙台城跡・地下鉄東西線：(公財) 仙台観光国際協会、仙台国際センター：青葉山コンソーシアム、次世代放射光施設：(一財) 光科学イノベーションセンター

第3章 青葉山エリアの基本的方向性

1 青葉山エリアのコンセプト

青葉山エリアのコンセプトの考え方

- ◆ 仙台はじまりの地という特別なエリアであり、豊かな自然や歴史を守り、受け継ぎながら、市民が愛着や誇りを感じる場であること
- ◆ 音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設の整備や、大手門復元に向けた調査など、エリアに新たな価値や魅力を加え、本市の歴史と未来をつなぐプロジェクトが進行していること
- ◆ 市民や国内外からの来訪者が、歴史、文化、観光、学術、自然等の様々な資源に恵まれたこのエリアで、その価値を生かした多様な過ごし方や楽しみ方ができること
- ◆ エリアの資源を生かしながら、本市の主要な観光地としての魅力と回遊性を高め、交流人口の一層の拡大を図ることで、都心とともに都市全体の活性化を牽引していくこと



杜の都の「歴史」と「今」と「未来」をつなぐ
～ 特別な空間と時間を青葉山エリアで ～

目指す将来像

- 市民や来訪者を惹きつけ、仙台の観光交流をリードする
- 杜や水と暮らす都市文化を未来に引き継ぐ
- 歴史や文化・芸術を伝え、創造性を育てる
- 学都の知と先端技術で未来社会を牽引する

2 目指すエリアの将来像、将来像実現に向けた取り組みの方向性

目指すエリアの将来像	将来像実現に向けた取り組みの方向性
<p style="text-align: center;">市民や来訪者を惹きつけ、 仙台の観光交流をリードする</p> <p>ハード、ソフトの個々の資源の魅力を有機的に結び、掛け合わせることで、エリア全体が魅力にあふれ、季節を問わず市民や観光客など多くの人々の心を惹きつけている。</p> <p>市民に憩い、安らぎ、学び、交流する場として親しまれるこのエリアは、国内外の来訪者にとっても巡りたくなる場となり、仙台を代表する観光地としての魅力を更に高めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観光資源の整備、事業の推進 ・エリアの資源を生かした観光コンテンツの充実、磨き上げ ・エリア内の魅力を高める施設等の立地促進 
<p style="text-align: center;">杜や水と暮らす都市文化を未来に引き継ぐ</p> <p>天然記念物青葉山、広瀬川、青葉山公園、西公園など、豊かな自然が市民生活の身近にあり、日常的に親しみ、くつろぎ、語り合う場として大切にされている。</p> <p>豊かな杜や水の恵みが、人々の暮らしを豊かにし、自然と共に生きる文化が杜の都のライフスタイルとして未来に引き継がれている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・憩い、自然に親しめる環境の整備 ・自然に触れる新たな楽しみや学びの機会の提供 ・広瀬川親水イベントの充実 
<p style="text-align: center;">歴史や文化・芸術を伝え、創造性を育てる</p> <p>史跡仙台城跡、瑞鳳殿、仙台市博物館など伊達政宗公以来の歴史を感じさせる拠点、宮城県美術館や音楽ホールなど文化芸術の拠点、災害文化を創造する震災メモリアル拠点等で、様々な世代の市民による学びや創造的な活動が盛んに行われている。</p> <p>旅行者等の来訪者は、各種資源に触れエリアの魅力を味わっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史や文化・芸術の資源を生かしたより深い学びや新たな楽しみの提供 ・音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設を拠点とした新たな文化の創造と発信 
<p style="text-align: center;">学都の知と先端技術で未来社会を牽引する</p> <p>東北大学、次世代放射光施設（ナノテラス）、仙台国際センター等が多くの学生、事業者、研究者等に活用され、世界をリードする研究や、MICEの実績を通して、新たな交流やイノベーションが生まれている。</p> <p>大学の知的資源や、エリア内で創出される先端技術が市民や来訪者にも開かれ、国内外の人々の学びや生活に寄与している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・エリア内施設や関連事業者との連携によるMICE受け入れ体制の強化とMICE参加者の回遊促進 ・大学が有する知的資源、エリアで創出される先端技術を市民や来訪者に紹介し、活用される機会の充実 ・大学の知見や「防災環境都市」としての発信による、国内外の防災力向上への寄与

3 4つの将来像の実現に向けた回遊性の向上

4つの将来像の実現により、市民や国内外からの多くの人々が、賑わいや新たな文化を創造しているようなエリアとしていくためには「回遊性の向上」が重要である。

施設間の距離が比較的長く、高低差のあるこのエリアにおける回遊性の向上はもとより、都心部とのつながりや人の流れを意識した都心との回遊性の向上も図ることで、都市全体の魅力、活力の向上につなげていく。

<取り組みの方向性>

エリア内の回遊性向上

- ・ エリア全体の一体的な情報発信の充実

(例) エリア共通Webサイトの構築、
共通デジタルサイネージの導入、
エリア内共通サイン設置

- ・ エリア内施設等の連携

(例) 博物館、美術館等の連携・共通企画

- ・ 仙臺緑彩館のエリア内案内機能の充実

- ・ 国際センター駅を基点としたアクセスの向上

(例) 仙台城跡へのアクセス向上の検討、
新たなモビリティの検討、
コミュニティサイクルの充実



新たなモビリティ
イメージ
出典：国土交通省資料

- ・ 快適な歩行環境の整備

(例) バリアフリーエリアの拡充、
施設間の移動をスムーズにする歩行者動線の整備、
ウォーキング・ランニングコースの充実

- ・ エリア内の魅力を高める施設等の立地促進

(例) エリアの魅力を生かしたレストランやカフェ、
快適な休憩スペース、トイレ等の整備

- ・ 交通渋滞への対応

(例) イベント開催時の施設間の連携、
地下鉄等の公共交通機関の利用促進

都心との回遊性向上

- ・ 交通事業者等との連携による回遊促進

(例) 新たなモビリティの検討、MaaSの充実、
都心循環バスとの連携



MaaSの充実

- ・ 居心地がよく巡り歩きたくなるような
ウォーカブルなまちなか空間の形成推進

(例) 定禅寺通活性化推進事業、
都心地区のまちづくり団体などとの連携

- ・ 青葉山エリアと都心をつなぐ場の賑わい創出

(例) 西公園、広瀬川等の活用、イベント等の活動支援

- ・ エリア内施設と中心部商店街等との連携

(例) 施設利用者への都心で利用できる特典の付与、
MICE開催時のユニークベンチャーとしての
都心の活用

- ・ 青葉山エリア、都心相互の情報発信の充実

(例) エリア相互を回遊するルートの発信

- ・ 民間事業者、市民活動団体等との連携・支援



西公園でのイベント



中心部商店街との連携
(サンモール一番町商店街)

第4章 青葉山エリアの将来

1 青葉山エリアでの楽しみ方・過ごし方

歴史や文化施設、大学などの学術施設、豊かな自然など、充実した資源や立地の良さから、市民は日常的にこのエリアを訪れ、また、観光やビジネスなどで訪れる多くの来訪者もこのエリアの魅力存分に楽しんでいる。その楽しみ方、過ごし方は多様であるが、本ビジョンではこうした様子を一例として概ね10年後を見据えたイメージ図で表現した。（イメージ図は現時点での想定であり、今後の事業の進捗等により変わる場合がある）

①青葉山公園から仙台城跡を望む“政宗ビュー”

➢ 植生の修景により、仙台城跡の城郭らしい景観“政宗ビュー”が実現

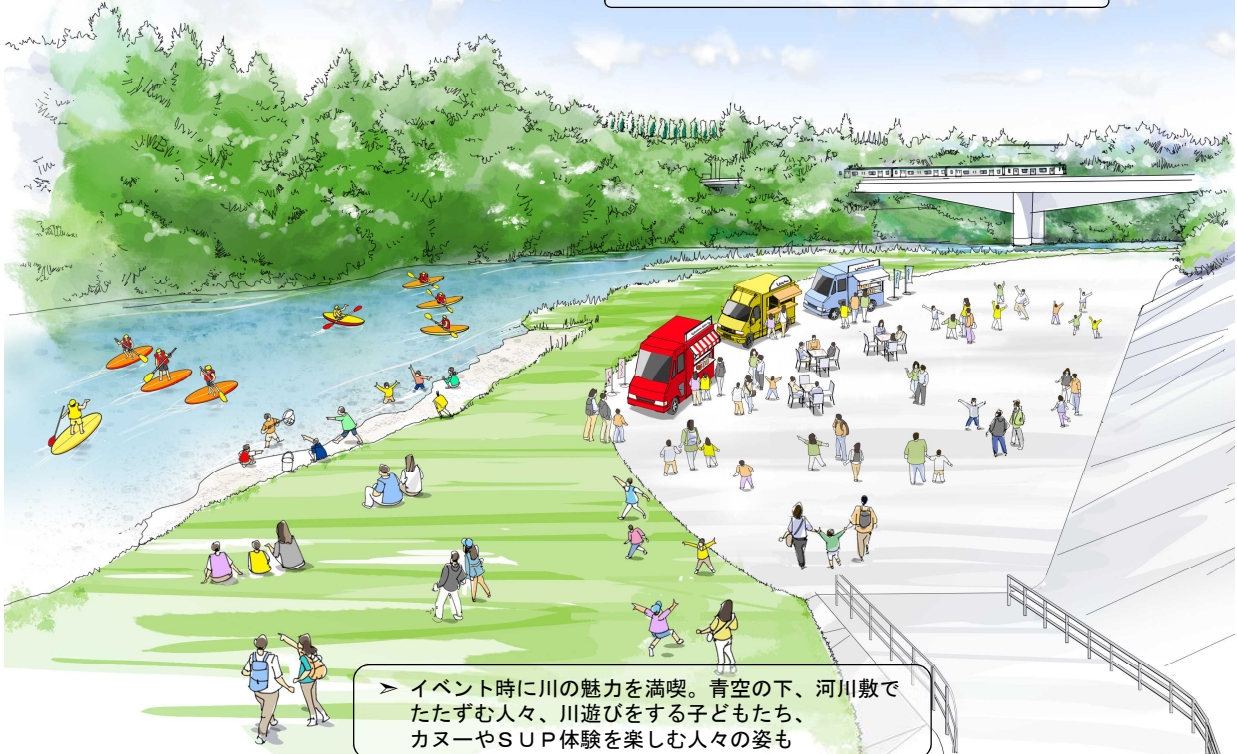


➢ 中央広場には、親子が体を動かして遊ぶ姿、お弁当を広げる姿も

➢ 公園から出発する、歴史・自然ガイドツアーに参加する人々の姿も

②広瀬川河川敷（西公園側）

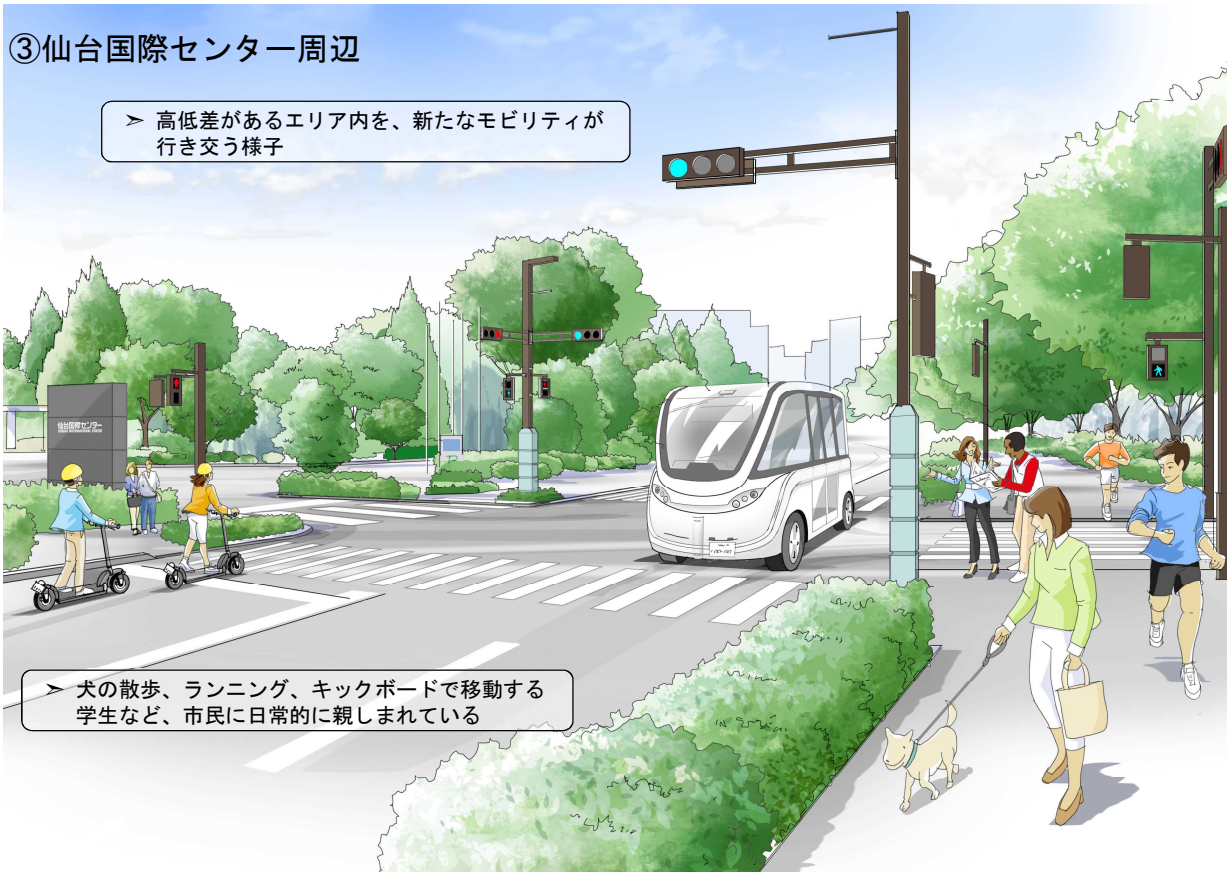
➢ イベントに活用され、市民でにぎわう広瀬川



➢ イベント時に川の魅力を満喫。青空の下、河川敷でたたずむ人々、川遊びをする子どもたち、カヌーやSUP体験を楽しむ人々の姿も

③仙台国際センター周辺

➢ 高低差があるエリア内を、新たなモビリティが行き交う様子



➢ 犬の散歩、ランニング、キックボードで移動する学生など、市民に日常的に親しまれている

④仙台城跡

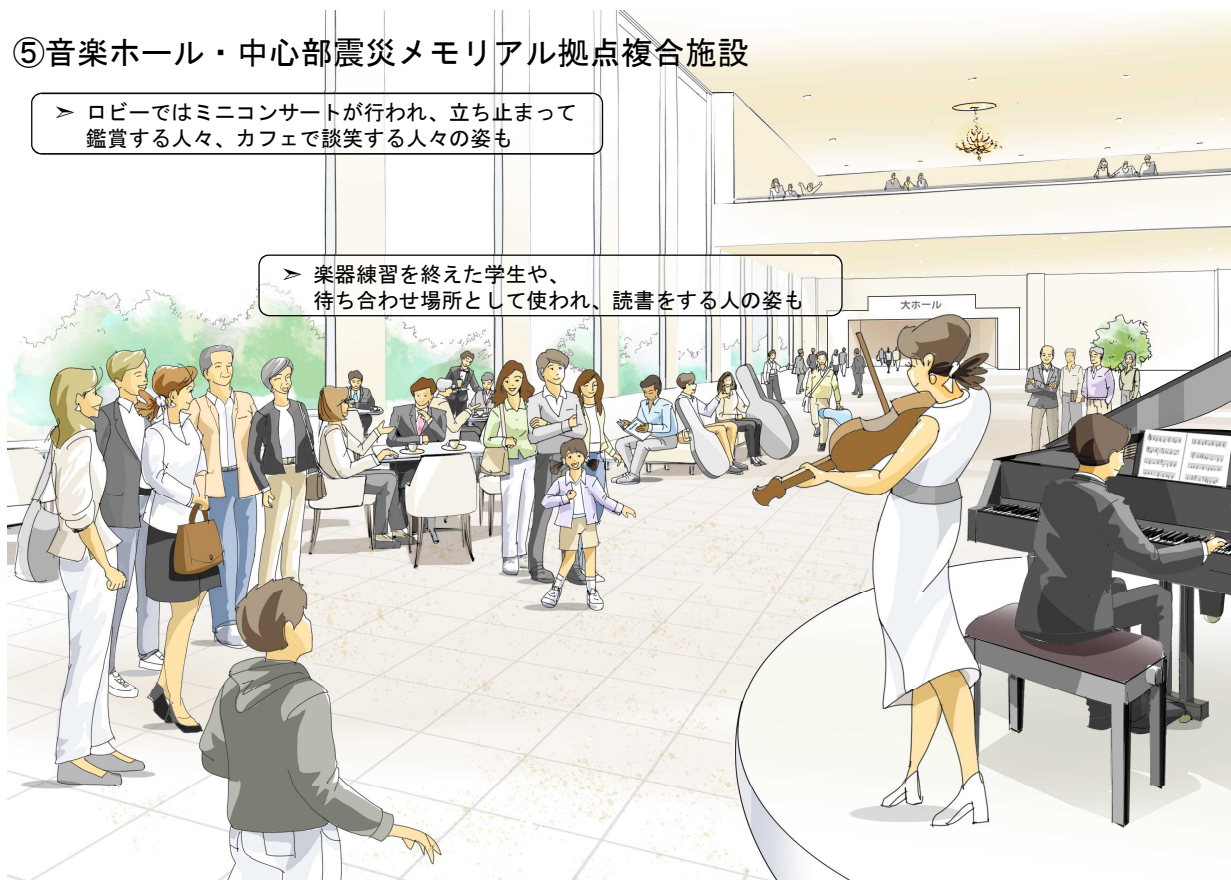
➢ 市内の夜景を一望できる仙台城跡。ライトアップされた騎馬像前で、武将隊によるエンターテインメントを楽しむ人々にぎわう



⑤音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設

➢ ロビーではミニコンサートが行われ、立ち止まって鑑賞する人々、カフェで談笑する人々の姿も

➢ 楽器練習を終えた学生や、待ち合わせ場所として使われ、読書をする人の姿も



⑥東北大学植物園（天然記念物青葉山）

➢ 市民に開かれ、散策やスケッチをする人々が訪れている



⑦青葉山公園・仙臺緑彩館



⑧東北大学サイエンスパーク、次世代放射光施設（ナノテラス）

> 教育旅行で施設見学。説明を受ける学生グループ



2 ビジョンの実現に向けて

本ビジョンが示す目指す将来像の実現により、一層の交流人口の拡大を図るためには、エリアにある個々の施設、事業等の取り組みはもとより、これら相互の連携により相乗効果を生み出し、エリア全体の魅力、ブランド力を高めていく視点が重要である。

こうしたことから、エリアに関わる多様な主体間の連携を強化し、ビジョン実現に向けた様々な取り組みを推進していく。

➤ ビジョンの共有

本ビジョンの実現に向けては、本市やエリア内の関係者のみならず、広く市民、経済界などの理解、協力を得ながら進めていくことが必要であり、エリアの目指す方向性、今後の具体の取り組みなどについて広報、周知を図っていく。

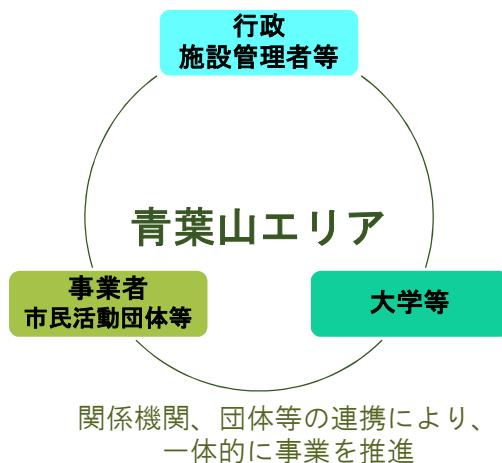
➤ 本市における推進体制

史跡仙台城跡整備、公園整備、広瀬川、観光、MICE、文化芸術、産業振興など、エリアに関連する事業は多岐にわたることから、庁内関係部局間の緊密な情報共有のもと、組織横断的に各種の検討や調整を行い、実効性のある施策の展開を図る。

➤ エリア関係機関、団体等との連携

行政、事業者、大学等のエリアに関する様々な主体が連携しながらエリア全体としての情報発信の充実や回遊性の向上に向けた取り組みなどを推進していく。

エリア全体で取り組みを効果的に推進するための仕組みや、その中心となる組織のあり方等について検討を進める。



検討経過

令和4年5月～6月	青葉山エリアに関する市民アンケート実施
令和4年8月30日	第1回青葉山エリア文化観光交流ビジョン検討懇話会
令和4年8月～9月	エリア関係団体（市民活動団体、事業者等）へヒアリング実施
令和4年9月25日	青葉山エリアに関する市民シンポジウム （仙台国際センター 参加者約200名）



令和4年11月8日	第2回青葉山エリア文化観光交流ビジョン検討懇話会
令和4年12月23日	第3回青葉山エリア文化観光交流ビジョン検討懇話会
令和5年1月23日～2月22日	ビジョン中間案に係るパブリックコメント
令和5年3月17日	第4回青葉山エリア文化観光交流ビジョン検討懇話会

